

ソフトタッチ

登録番号：第7384号

登録年月日：平成11年9月6日

登録者：沖縄県（沖縄県那覇市泉崎 1-2-2）

育成者：池宮秀和 高原利雄 中西
建夫 島袋用詳 唐真彦
島仲常吉 出花幸之介 金
城鉄男 小野良孝 藏盛一

夫 山口勲夫 岡啓 宮城
恒夫

歴：「ハワイ系（スムースカイエ
ン種）」と「I-43-880」の交
雑実生

育成地：沖縄県那覇市（沖縄県農業
試験場名護支場）

特性

■栽培特性

草姿は開帳性で、葉は軟らかく淡緑色を呈している。葉縁部に刺が少し発生するが軟らかく、刺発生の多い生食用品種の「ボゴール」より栽培管理、収穫作業が容易である。夏実着生時における、えい芽の発生は5本程度と比較的多く、植え付け種苗の確保は容易であるが、えい芽の大きさは小さく150g程度である。吸芽は1～2本程度で適正な発生である。葉数は49枚と比較的多い。果柄の長さは26cm程度で夏実としては加工、生食用品種の「N67-10」および「ボゴール」より比較的長いが、夏実の倒伏は見られない。冬実の発生時には、えい芽および吸芽の発生は少なくなるが、葉数が多く果柄も長くなる。沖縄本島の北部地域では、露地栽培の夏実は3月中旬頃に出蕾し、収穫は7月中旬で「ボゴール」とほぼ同時期、「N67-10」よりは1カ月程度早い早生種である。八重山地域では収穫がさらに1カ月程度早い。

■果実特性

果実の大きさは「N67-10」より小さく、「ボゴール」とほぼ同等で、夏実で800g前後のたる形を呈する。果皮は橙褐色で小果の突出度は平滑である。果肉は乳白色で軟らかく、「ボゴール」より果肉内の空隙が少なく、果汁量は多い。夏実では糖度が17%前後、酸度が0.5%前後で「N67-10」より高糖低酸で食味に優れている。果実は既存のパイナップルとは異なり、もみに類似した香気を有する。ハウス栽培で8～9月に草本をカーバイトで処理して出蕾させ、春に収穫する春実は夏実よりやや大きく、夏実と同様食味に優れている。冬実は夏実より果実が大きく香気があるが、「ボゴール」よりも低糖高酸で食味は劣る。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

パイナップルの果実の大きさは草本の大きさと相関関係にあり、本品種のように果実が小さい場合は大きめの種苗を植え付け、生育促進を図る必要がある。本品種は夏実着生時にはえい芽の発生が多いので、植え付け種苗の確保は容易であるが、えい芽の大きさは小さい傾向にある。えい芽を2本程度残し、残りは除去して果実の肥大促進を図るよう心がける。えい芽を植え付け種苗に用いる場合は大苗に育苗する必要がある。草本は心腐病に弱いので、植え付け種苗は殺菌処理して植え付ける。植え付け時にポリマルチまたは敷き草をするとともに、深植えは避ける。植え付け後も適宜に薬剤防除を行う。本品種は果実病害の黒目病や花樟病にやや弱く、花樟病の場合は開花期の液肥や尿素散布を避け、病菌の侵入を促進する要因を避ける必要がある。

■地域適応性

本品種は沖縄本島北部地域と八重山地域の酸性土壌地帯に適しているが、八重山地域では早く収穫できかつ品質もよい傾向にある。また耐寒性がやや弱いので年平均気温の高い八重山地域の方が奇形果の発生が少ない傾向にある。

ハウス栽培では、露地栽培よりも果実が大きく、病害果も少なくなる傾向にある。

(池宮秀和)